

# 会 議 録

## 1 会議名

平成28年度第2回上越休日・夜間診療所運営委員会

## 2 協議事項等（公開・非公開の別）

- (1) 平成28年度1月末現在の運営状況について（公開）
- (2) 平成29年度事業概要について（公開）
- (3) 休日・夜間診療所の今後の方向性について（非公開）
- (4) その他（非公開）

## 3 開催日時

平成29年2月24日（金）午後7時00分から午後8時00分

## 4 開催場所

上越市役所4階 402・403会議室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

上越市審議会等の会議の公開に関する条例第7条第1項第4号「意思形成過程事項」に該当するため

## 7 出席した者 氏名（敬称略）

- ・委員 早津正文、渡辺雅晴、林三樹夫、小池宏、小出智子、園田裕久、石原克英、折笠正勝、増村由紀
- ・事務局 上越市八木健康福祉部長、伊藤地域医療推進室長、森田副室長、池田係長、羽深主任  
妙高市松原健康保険課課長補佐、堀川係長

## 8 発言の内容（要旨）

- (1) 八木健康福祉部長挨拶
- (2) 早津委員長挨拶
- (3) 協議事項等

ア 平成28年度1月末現在の運営状況について（公開）

### 【早津委員長】

協議事項(1)の「平成28年度1月末現在の運営状況について」事務局に説明を求める。

### 【伊藤室長】

資料1-1から資料1-7により説明

### 【早津委員長】

委員に質疑を求める。

### 【早津委員長】

資料1-1について、患者数が増えているとのことだが、インフルエンザの患者が増えたから多くなったということはわかる。

資料1-2について、平日夜間の平均患者数のグラフでは最初の1時間、次は1時間半と区切っている。出務された医師からは21時以降は患者が少ないから、21時以降は開けなくても良いのではというような意見があった。21時前と21時以降で比べてほうが良いのではないか。

それから、病院からの紹介というのはどのように把握しているか。病院に電話してから来る患者を数えているのか。

**【伊藤室長】**

平日夜間の開設時間については患者数の集計方法を工夫し、状況を見ながら検討していきたい。

二次病院からの紹介については、休日・夜間診療所に来られる前に県立中央病院、上越総合病院等に電話や直接行くなどして症状を説明する中で、病院から休日・夜間診療所の受診を勧められた患者を数えている。

**【早津委員長】**

病院と診療所の連携がうまくできているということで良いか。それから資料1-3は休日・夜間診療所に近いからなのか、パーセンテージで見ると住民が多いところは多くなるが、どのように考えているか。

**【伊藤室長】**

近いところからの患者が多いということを示したものである。

**【早津委員長】**

例えば、妙高市では妙高の病院が頑張っているのかどうかを知りたかった。妙高市は妙高でしっかりと診てくれる医療機関があるのかを知りたい。

**【林委員】**

利便性もあるのではないか。妙高市は資料1-7で見るとけいなん病院の自主来院患者数が1,000名近くあるので、けいなん病院の頑張りというのはあるのではないかと考える。地域別のバラつきというのは、病院への受診状況が反映されたものかと感じた。

**【早津委員長】**

資料1-5について、診療時間の問い合わせが多い理由は何か。

**【森田副室長】**

日常的にかかる医療機関ではないため、いざかかろうかとしたときに、やっているかどうかの確認、問合せが多いと考えられる。開設時間に関しては、様々な機会を使って周知している。

**【早津委員長】**

混み具合についての問合せもあるのかと思った。

**【林委員】**

小児科と内科の休日・夜間診療所に来られる方の割合はほぼ同じである。一つは子供の数が減ったというのもあると考えられるが、年次変化で見ると内科の患者数は絶対数で増えているか。

つまり、小児科はある程度、休日・夜間診療所の受診というのが一般に知られている。内科の絶対数の年次変化を捉えることで、今後の二次病院の自主来院救急患者をどのように軽減できるか、評価する上で大事かと考える。

**【伊藤室長】**

年齢別の統計を取り始めたのが昨年からで、もう少し長いスパンでデータが蓄積していけば、経年変化が見てくる。前回の会議でも人口動態を考えてみたらどうかという意見があった。患者数の比較だとなかなか読み取れないところがあるため、もう少し何年かみていかなければいけないと考えている。

**【林委員】**

平日夜間を開設するにあたって調べたことがあるが、当時では小児科が6割、7割という状況であった。十数年前の話であるが参考にしてほしい。

**【早津委員長】**

年齢を59歳までと60歳からで区分している理由は何か。

**【羽深主任】**

大きな区分けとして小児科と内科と高齢者というような区分で分析した。高齢者は65歳以上であるが、切りの良いところで60歳で区分したものである。

**【林委員】**

高齢者の患者については、求められる内容が変わってくると考えている。今までは風邪等で来られる方も多かったと思うが、高齢者は生活習慣病等の様々な疾患を持っていて、心配だからということでも受診される。診る側としては、何を求められているのかがわからない場合もあり、割と単純じゃないと考えている。

イ 平成29年度事業概要について（公開）

**【早津委員長】**

協議事項(2)の「平成29年度事業概要について」事務局に説明を求める。

**【伊藤室長】**

資料2、3により説明

**【早津委員長】**

委員に質疑を求める。

**【林委員】**

診療所の医療機械については、来年度は特に異論はないが、内科系の疾患で求められるものが変わってきている。画像診断が弱い。現在可能な検査は血液検査と尿検査だけである。例えば胆石とか腹痛とかを診断する上でエコーなどの導入の要望はないか。例えば腹痛で来られた方で胆石かもしれない場合にエコーによる診断ができるが、ない状況で二次救急に転送するのをためらうときがある。そういった要望がないか教えていただきたい。

**【羽深主任】**

医療機械については、出務されている先生からは要望は出ていない。ただ、医薬品の配備に関して要望をいただくことはある。

**【折笠委員】**

資料2の黒字分については、病院群輪番制事業補助金の財源として活用とあるが、これはどういうものか。単年度で活用するということか。

**【伊藤室長】**

病院群輪番制事業については、二次病院が交代で当番制により救急車の受入体制を確保している。この体制確保に係る費用として各病院に補助金という形で支出している。

**【早津委員長】**

エコーの話については、予算があれば購入してもらいたい。先生方の意見が割れるかもしれないが、出務した先生に聞かないことには話は進まないので私の方でも聞いてみたい。

**【早津委員長】**

薬剤師の出務報酬の改定について、休日・夜間診療所に勤務するその他の職種についても要望がなくても検討したということか。

**【伊藤室長】**

今回の報酬の改定については、医師も含めた有資格者の職種について市全体で見直しを行った。その中で薬剤師だけが、平均と比べて低かったことから、今回見直しを行うものである。

**【林委員】**

啓発活動について、上越市で新たに子育てを支援するスマートフォンのアプリを計画されている。このアプリに子供の救急Q&Aやアレルギー対応のホームページにリンクをするような話を担当課としたことがあるが、このアプリに休日・夜間診療所が含まれているか確認したい。

【八木部長】

この前の健康づくり推進協議会で紹介させてもらったが、順調にいけば3月13日に運用を開始し、3月14日にイベントを行う。休日・夜間診療所に関して掲載していない場合は至急対応する。

【早津委員長】

診療体制の強化についてであるが、医師を増やすということは有り難い。これで強化できることは概ね対応できたということか。

【伊藤室長】

カレンダーを見る中で、増やした方が良いというところを考慮して強化するものである。

ウ 休日・夜間診療所の今後の方向性について（非公開）

エ その他（非公開）

(5) 閉会

9 問い合わせ先

健康福祉部 健康づくり推進課 地域医療推進室 TEL 025-526-5111（内線1557）

E-mail:chiikiiryoud@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。